

改善報告書

令和4年7月27日

1. 大学名：くらしき作陽大学

2. 認証評価実施年度：令和2年度

3. 「改善を要する点」の内容

基準項目：2-1

○音楽学部音楽学科と食文化学部現代食文化学科の収容定員充足率が 0.7 倍を下回っており、志願者数確保のために、学科の特性に応じた募集活動への徹底した対策を行うよう改善を要する。

4. 改善状況及び結果

基準項目 2-1 について

2020 年度より、大学のブランディング広報（TVCM、Web 広告、受験生応援サイトの開設、コンセプトブックの発行、新聞広告、ダイレクトメール、交通広告（デジタルサイネージ）等）を開始し、タグラインを使った統一的な広報を継続的に行っている。また、「WEB オープンキャンパス」、「ZOOM による個別相談会」、「LINE 個別受験相談」等、オンラインで拡大した接触チャンネルを SNS（Twitter、LINE、Instagram、Facebook）で積極的に広報し、学生募集に繋げている。

音楽学部音楽学科では、学科会議を毎週開催し、募集活動状況、受験生の情報について所属教員全員で共有するとともに、募集戦略を立案している。具体的な募集活動としては、年 4 回開催するオープンキャンパス、年 9 回開講する音楽講習会や、各地の高校の吹奏楽部や音楽科・コースでの体験レッスンや学部紹介の実施、同窓会との連携事業（コンクール、吹奏楽クリニックの実施）、系列高校との連携事業の強化等、様々な取り組みを教職協働で行っている。令和 4（2022）年度入学生は、入学定員の 60 人を上回る 62 人であり、収容定員充足率は令和 2（2020）年度が 60%、令和 4（2022）年度が 68%と、一定程度改善したと言える。【資料 1】

食文化学部現代食文化学科では、2021 年度より学長直下の「現代食文化学科再生プロジェクト」を立ち上げ、募集戦略の策定や、魅力ある教育内容の検討を行っている。カリキュラムについては、栄養士養成科目の他に、「食育」、「家庭科教育」、「健康増進とスポーツ栄養」、「商品開発と流通」、「フードコーディネーターと食環境」の 5 つのオリジナルカリキュラムを編成し、食と健康に興味を持つ幅広い層にアプローチを図っている。また、「晴れの国岡山農業協同組合」と連携・協力に関する協定を締結し、食と農を通じた人材育成にも力を入れるとともに、授業や広報誌等の様々な取り組みにおける連携で、学科の広報にも役立てている。具体的な募集活動としては、年 4 回開催するオープンキャンパス、年 9 回開講するオープンセミナーや、高大連携事業の拡大、学校推薦型選抜における特別指定校の設定や特待生制度の見直し等、様々な取り組みを教職協働で行っ

ている。これらの取り組みにより、令和4（2022）年度入学生は令和3（2021）年度と比較して23人増加し、一定の成果が得られている。今後も効果的な募集戦略を継続するとともに、改組を行う等、収容定員充足率の改善に努めていく。

○定員充足率の推移【資料1】

- ・令和2（2020）年度5月1日現在※受審年度
 - 音楽学部音楽学科 60%（収容定員：280、在籍者数：168）
 - 食文化学部現代食文化学科 67%（収容定員：320、在籍者数：213）
- ・令和3（2021）年度5月1日現在
 - 音楽学部音楽学科 62%（収容定員：280、在籍者数：174）
 - 食文化学部現代食文化学科 58%（収容定員：320、在籍者数：186）
- ・令和4（2022）年度5月1日現在
 - 音楽学部音楽学科 68%（収容定員：280、在籍者数：191）
 - 食文化学部現代食文化学科 57%（収容定員：320、在籍者数：181）

5. エビデンス（根拠資料）一覧

基準項目2-1の資料

- ・資料2-1 学部、学科別在籍者数（過去3年間）

資料2-1

学部、学科別在籍者数（過去3年間）

学部	学科	令和2（2020）年度				令和3（2021）年度				令和4（2022）年度			
		在籍者数 (人)	留学生数 (内数/人)	社会人 入学 学生数 (内数/人)	帰国 生徒数 (内数/人)	在籍者数 (人)	留学生数 (内数/人)	社会人 入学 学生数 (内数/人)	帰国 生徒数 (内数/人)	在籍者数 (人)	留学生数 (内数/人)	社会人 入学 学生数 (内数/人)	帰国 生徒数 (内数/人)
音楽学部	音楽学科	168	0	0	0	174	0	0	0	191	0	0	0
食文化学部	現代食文化学科	213	3	0	0	186	1	0	0	181	2	0	0